

2 コラム RAMPWAY
泉 麻人

特集 都市への期待
さらなる飛躍へ

5 東京のブレイクスルー
経済協力開発機構(OECD)
都市・都市政策及び持続可能な開発課
持続可能な開発・グローバル関係ユニット長
松本 忠

8 都市計画と「豊かさ」
神戸大学大学院 工学研究科市民工学専攻 教授
小池淳司

12 ぶら〜り首都高めぐりの旅
6号向島線の巻

13 データ物語
首都東京の暮らしを支える

14 Taste of the Season
森下典子

16 首都高HEADLINE

18 BUSINESS ESSAY
観光立国・日本のカギは夜にあり
A.T. カーニー 日本法人会長
梅澤高明

20 つくる人まもる人
首都高速道路株式会社
川口裕士 植松慶道

22 高速百景 中野正貴

contents produced by
Metropolitan Expressway Company Limited



illustration by Takao Nakagawa

column | RAMPWAY 40

首都高名所案内
神宮外苑
絵画館と裏町散歩

コラムニスト
泉 麻人

首都高の外苑出入口周辺には、国立競技場をはじめとするオリムピックの関連施設が集まっている。いまや「外苑」という地名が定着したので意識していない人も多いかもしれないが、ここは明治神宮の外苑であり、それ以前は陸軍の青山練兵場が広がっていた一帯なのだ。

明治天皇が崩御して(明治45年)、明治神宮が創建されたのが大正9年の

その外観はよく知られているけれど、館内の絵画を鑑賞したことのある方は案外少ないのではないだろうか。この展示、500円という低料金の割にはなかなか充実している。明治天皇の生誕から崩御までの出来事をテーマにした絵画が80面(作)飾られているのだが、入って右手のフロアーの人生前半期は日本画、左手の後半期は西洋画、と趣向が凝らされている。多くは開館した大正の終わりから昭和の初めにかけて様々な画家によって描かれたものだ。

大政奉還や五箇条の御誓文発布、日清戦争の軍事会議……といった重要な国政事項を扱った絵画もあるけれど、僕の好みは歴史の教科書には載っていない、些細な日常の行動を描いたもの。たとえば皇后陛下が赤坂御苑内の水田の田植えを見物されている場面とか、富岡製糸場で蚕の生育を観察されている場面とか。そして、ここに来るたびにいつもじっと佇んで見入ってしまうのが、馬場先門内の屋敷で病床に伏す岩倉具視を制服姿の明治天皇が直立不動で見舞う、北蓮蔵(きたれんざう)の作品。明治16年夏のことなので、畳間の四方に花を飾った氷塊が置かれている。

さて、そんな絵画館の展示を久しぶ

こと。ちょっと離れたここが外苑として整備される発端は、いまの絵画館のあたりに明治天皇の御葬場殿が置かれたことだろう。この絵画館、正式には聖徳記念絵画館といって、大正末の15年に竣工した。大正8年頃から工事を始めて、間に関東大震災をはさんでいるが、花崗岩と鉄筋コンクリートで主体にした、いかにも堅牢(けんろう)そうな姿を見せている。

りに眺めて外に出ると、西方に木を使った外縁部が印象的な新しい国立競技場が見える。その前身は学徒出陣なども行われた明治神宮競技場で、南方に野球場(神宮球場)が並ぶ配置はいまほとんど変わらないが、かつては両者の間に相撲場というのが存在した。いま神宮第二球場になっている場所だが、円形のコロシアム調の屋外スペースの真ん中にぽつんと屋根つきの土俵が置かれた、往時の写真がネットにアップされている。

この辺までくると、表参道の方に向かって裏道を散歩して帰ることが多い。新ビル工事の進む霞ヶ丘アパートの跡地の脇から勢揃坂の方へ行くのもいいが、外苑西通りに狭い口を開けた神宮前2丁目の商店街もおもしろい。下町の上野あたりで見かける看板建築の古い店屋が残っていたり、路地裏に昔のポンプ井戸の遺構があったり。そんな昭和風商店筋のなかを小さなハチ公バスが走る姿も気に入っている。

いずみ あさと / 1956年、東京都新宿区生まれ。慶應義塾大学商学部卒業。79年、東京ニュース通信社に入社。『週刊TVガイド』などの編集者を経て、フリーのコラムニスト。近著に「1964 前の東京オリンピックのころを回想してみた。」(三賢社)がある。